

テレビ暴力番組の類型化に関する実証的研究

佐々木 輝美

I. 研究の背景と目的

テレビ暴力という言葉は、英語の television violence の直訳であり、テレビで描かれる暴力という意味で使われている。そこで、テレビ暴力研究は、テレビで描かれる暴力が視聴者にどのような影響を与えるかという問題を主に扱っている。このテレビ暴力研究は、特に 1960 年代から 1970 年代にかけて精力的に行われ、テレビ暴力番組は是か非かという問題が問われた。現在では、テレビ暴力番組がなんらかの形で視聴者に悪影響を与えているということが認められつつある。しかし、Milavsky ら (1982) の 3 年間にわたる研究の結果は、テレビ暴力視聴と視聴者の暴力的傾向との間には相関がないことを示している。また、テレビ暴力番組が望ましい効果（カタルシス効果）を持つことを否定する十分な証拠が示された訳でもない。従って、テレビ暴力の問題は現在も研究途上にあり、明らかにすべき多くの点が残されている。

例えば、似ていると思われる 2 つのテレビ暴力番組があっても、一方を視聴した人は暴力的傾向が増加し、他方を視聴した人は暴力的傾向が減少するという研究結果が得られることがある。Siegel(1956) の実験では、非暴力映画を視聴した子供よりも暴力映画を視聴した子供の方が暴力的になる傾向が見られたが、Feshbach(1961) の実験ではその逆の傾向が認められた。このように、一見すると矛盾している結果を示す研究は少なくない。

本研究は、過去に行われたテレビ暴力番組の効果に関する諸研究において、

何故相反する理論が存在しているのかという疑問を持つことから始まった。相反する理論が存在するのは、送り手側から発せられたメッセージすなわち暴力番組の要因と、メッセージの受け手側である視聴者の要因のどちらか、あるいは両者に原因があると考えた。この点を明らかにするためにテレビ暴力に関する過去の研究を概観した結果、視聴者側の要因については、フラストレーションの有無、社会経済的地位、その他の検討が試みられているが、暴力番組の要因についてはほとんど考慮されていないことがわかった。例えば、暴力刺激として、西部劇、ボクシングの試合、マンガなど、様々なものが過去のテレビ暴力研究で使われており、暴力番組タイプ別の効果という視点での研究は皆無と言っても良い。こうして、本研究では過去のテレビ暴力研究において、暴力番組別の効果という視点に欠けている事を指摘し、この領域の研究の必要性を強調した。そこで、暴力番組類型別の効果を明らかにするという展望を持ちつつ、本研究ではその第1段階として、暴力番組の類型化を行うことを目的とした。

テレビ暴力番組視聴の効果に関する理論として、主にカタルシス理論、観察学習理論、脱感作理論、そして教化理論の4つの理論がある。カタルシス理論では、テレビ暴力視聴によってスッキリした気分になることから、視聴者の暴力的傾向が減少、あるいは消滅することを主張し、逆に観察学習理論では、テレビ暴力視聴によってモデルの暴力を習得し、ある状況下において、視聴者は習得したモデルの行動をとるので、視聴者の暴力的傾向が増加することを主張している。脱感作理論では、テレビ暴力に多くさらされると視聴者は暴力に慣れ、平気になってしまうと主張するが、教化理論では、テレビ暴力に多くさらされると、視聴者は世の中に暴力があふれていると思い込み、暴力に対して過度の恐怖心を持ってしまうと主張している。この様に、カタルシス理論と観察学習理論、そして脱感作理論と教化理論は、相反する側面があることがわかる。

それぞれの効果レベルにおいて、相反する結果が得られてきたことについては、暴力番組類型別に得られる効果という視点から説明できると考えた。

テレビ暴力の研究者が異なった理論を打ち出してきたのは、それぞれの研究者が暴力番組を想定する際、本来はいくつかに分類できるはずの暴力番組のどれか一つをとりあげて調査や実験に使用したことによると考えられる。ある研究者がAタイプの暴力番組を取り上げて研究したところ、カタルシスの効果を示す結果が得られたとする。これを他の研究者が追試した際、Aタイプの暴力番組ではなく、Bタイプの暴力番組を取り上げたならば、カタルシス効果とは逆の効果を示す結果が得られても全く不思議ではない。このように考えると、4つの理論をお互い相容れないものとしてとらえるのではなく、暴力番組の種類によって、それぞれの理論が成り立つととらえる方が妥当である。4つの理論が、長いテレビ暴力研究の中で得られたものであるならば、それらに対応する暴力番組の種類が存在することが予測される。

以上の様に、テレビ暴力研究における4つの理論に基づく効果の類型に対応する、4つの暴力番組の類型が存在するのではないかと考え、本研究では次の仮説を提示し、その実証を試みた。

仮説：カタルシス理論、観察学習理論、脱感作理論そして教化理論に基づく効果の類型は、充足に基づくテレビ暴力番組の類型に対応する。

Ⅱ．調 査

1．調査方法

調査対象は三鷹市と、同市を囲む武蔵野市、小金井市、府中市、調布市、計5市の住民680名である。電話帳を利用し、500人おきに被調査者を選び、郵送法による調査を行なった。その際、被調査者をさらに無作為に選ぶために、O'Rourkeら(1983)のサンプリング方法を参考にし、調査票が送られた家の家族の中で、一番最近に誕生日を迎えた人に回答してもらうように依頼した。尚、電話帳に記載されている住所は、一番最後の号が省略されているので、最終的に、各市の市役所で住民票を閲覧して確認した。

調査を行なった時期は1990年7月下旬から9月上旬である。調査の項目は、1)よく見ている番組を3つまで記述し、2)記述した番組それぞれについて、32の充足項目に同意するかどうかを5ポイント・スケールで答えるというものである。

調査票は添付資料の通りである。先ず職業、年齢、性別の項目の当てはまるものを選び、次に視聴している番組を3つ記入するようになっている。但し、3つの番組のうち1つは、こちらで用意した12の暴力番組の中から選んでもらうようになっている。これはできるだけ暴力番組をひろうためである。しかし、12の暴力番組を視聴していない場合には、よく視聴する番組を自由に記入してもらった。次に、記入してもらった番組それぞれについて32の項目に答えてもらうようになっている。見易いように4項目ずつまとめて印刷してあるだけで、これらが意味ある項目群という訳ではない。以下に、どのような項目があるかについて順を追って簡単に説明しておく。

先ず、調査票の1～7はテレビ番組と自分とを関係づけた形での充足項目であると考えられる。8～12は登場人物に対する感情移入に関する充足項目であり、13～26は感情に関わる充足であると考えられる。

27～30の項目は登場人物に対する感情であり、残りの31の項目は視聴後の感情、32は知的な充足の項目と考えられる。

2. 調査結果と分析

680名に対し郵送による調査を行なったところ、268名(39%)から回答を得ることができた。回答番組数は171、回答番組の総数は742であった。

表1から、大体年代ごとに被調査者が抽出されていることがわかる。60代以上が多くなるであろうことは、70代や80代の人による回答も考えられるので、ある程度予想したところである。被調査者の無作為抽出という点では、満足すべきものが得られたと言える。また、表2からわかるように、職業は、会社員が最も多く、次に主婦という順である。

表 1 被調査者の内訳（年代別）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男	16	20	23	22	15	46	142
女	25	21	14	24	21	17	122
計	41	41	37	46	36	63	264

(欠損：4)

表 2 被調査者の内訳（職業別）

	中 学	高 校	大学 学院・	専門 学校	会 社 員	公 務 員	自 営 業	主 婦	無 職	そ の 他	計
男	10	5	8	2	63	3	19	／	23	6	139
女	13	10	6	0	18	5	6	56	7	2	123
計	23	15	14	2	81	8	25	56	30	8	262

(欠損：6)

表 3 は、よく視聴されている番組とその度数をまとめたものである。1 人につき、3 つまで番組を選択させているので、番組の総数は、分析対象者の数とは一致しない。

表3 よく視聴されている番組とその度数

(○は暴力番組)

	番組名(度数)
1	ニュースステーション(49)
②	大岡越前(47)
③	ギミア・ぶれいく(46)
④	火曜サスペンス劇場(31)
⑤	暴れん坊将軍(29)
⑥	はぐれ刑事純情派(26)
7	プロ野球中継(23)
⑧	志村ケンのだいじょうぶだぁ(22)
9	凜々と(17)
⑩	三匹が斬る(15)
11	ちびまる子ちゃん(14)
12	翔ぶが如く(13)
⑬	加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ(12)
14	ねるとん紅鯨団(12)
⑮	土曜ワイド劇場(11)
16	NHKスペシャル(11)
17	関東甲信越小さな旅(10)

次に、32の充足項目をより少数の項目群にまとめるために因子分析を行った結果6つの因子が得られた。表4はバリマックス回転後の因子行列である。

表4 バリマックス回転後の因子行列

		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
項 目 番 号	1	.77110	.18901	.07070	.12120	.03832	.16781
	2	.69077	.09003	.04406	.05846	.36796	.15955
	3	.79674	.16158	.16910	.13247	.05274	.13976
	4	.78763	.18521	.21244	.15702	.08337	.02980
	5	.74932	.25363	.23661	.14253	.04027	.12496
	6	.70331	.00229	.16326	.20287	.27901	.08683
	7	.39573	.08100	.35223	.38984	.22094	-.25922
	8	.22672	.33182	.57470	.08860	.10089	.14949
	9	.22789	-.17255	.23409	.06748	.68679	.08487
	10	.12549	.11328	.86456	.08607	.11739	.18006
	11	.17304	.03668	.82729	.05502	.18613	.21799
	12	.15493	.21736	.65511	.34151	.12776	-.19360
	13	.39842	.18554	.49046	.09119	.05719	.43582
	14	.14484	.19652	.21659	.73331	.03753	.19493
	15	.22802	.43971	.27977	.37759	.20384	.31065
	16	.15409	.15863	.07198	.81644	.00608	.06799
	17	.18348	.58854	.31012	.46680	-.06886	.01481
	18	.11290	.35915	.04345	.05746	.71077	.09605
	19	.18234	.54366	.25632	-.03631	.23710	.41112
	20	.42292	.52061	.12648	.27362	.11141	.02223
	21	.13627	.74895	.00763	.21660	.12468	.13135
	22	.19188	.65381	.13423	.12960	.11902	.44711
	23	.54383	.31661	.09005	.20956	.13324	.31390
	24	.25432	.19465	.23441	.30624	.09665	.57884
	25	.31300	.26534	.05309	.31336	.28687	.54157
	26	.30781	.36096	.15743	.26960	.35195	.42983
	27	.21060	.50287	.35154	.00398	.36142	.25707
	28	.10543	.37983	.15935	.03278	.71941	.12517
	29	.34905	.38368	.24097	.00554	.40785	.23706
	30	.32256	.49040	.32721	.10065	.24415	.03441
	31	.10021	.22971	.14445	.43946	.15578	.52636
	32	.21491	.01744	-.00472	.79979	.05784	.23782

表5 32項目についての因子分析（バリマックス回転）結果
（固有値1以上の因子とパーセント・コミュニティ）

<p>第1因子 (39.7%)－行動刺激－</p> <ul style="list-style-type: none"> * 1. 自分も同じ様なことがしたくなる * 2. 自分も番組に出てみたいと思う * 3. 自分が同じ事をしている気分になる * 4. 自分も主人公になった気分になる * 5. 自分も主人公のようになりたいたいと思う * 6. 自分も同じ物が欲しくなる 7. テレビと自分の場合を比較して安心する *23. うらやましくなる
<p>第2因子 (6.6%)－気分転換－</p> <ul style="list-style-type: none"> 15. 元気になる、がんばるぞという気分になる 17. じーんと感動する 19. スカッとする 20. うっとりする *21. 心がなごむ *22. 気分がよくなる *27. 好きな人が出てきてうれしくなる 30. 本当にそんな人がいたらなあと思う
<p>第3因子 (6.4%)－感情移入－</p> <ul style="list-style-type: none"> * 8. テレビに出ている人がうまくいくとうれしい *10. ひいきにしている方が勝つとうれしくなる *11. ひいきにしている方がだめだとくやしくなる *12. かわいそうに思う 13. 興奮してくる
<p>第4因子 (5.6%)－知的満足－</p> <ul style="list-style-type: none"> *14. なるほどと感心する *16. 色々考えさせられる *32. 教養がついてためになったような気分になる
<p>第5因子 (3.8%)－笑い－</p> <ul style="list-style-type: none"> * 9. テレビに出ている人が失敗すると楽しい *18. 笑えておもしろい *28. タレントがおもしろくて楽しい 29. テレビに出ている人に会いたくなる
<p>第6因子 (3.2%)－感動－</p> <ul style="list-style-type: none"> *24. すごいなあと思う *25. 得をした気分になる 26. 1日がいい日になりそうな気分になる 31. 見てよかったなあと思う

（第1～第6因子で全分散の65.3%）

*は負荷量が0.5以上で傾向のより明確な項目

表4を参考にして、32の項目を各因子に分けて表5に示した。大きな負荷量（0.5以上のもの）を持ち、傾向のより明確な項目には*印がついている。

第1因子は、視聴している側も何かをしたいような気持ちにさせる因子と解され、行動刺激と名付けられるものである。もしある暴力番組が、この因子を多く充たしているとするれば、その暴力番組は行動刺激型として類型化される。

第2因子は、視聴者側のストレス解消を促すものと考えられ、気分転換と名付けられるものである。もし、ある暴力番組がこの因子を多く充たしているとするれば、その番組は、気分転換型として類型化される。

第3因子は、視聴者が番組の人物と感情を共にするもので、感情移入と名付けられる。暴力番組がこの因子を充たすとするれば、感情移入型として類型化される。

第4因子は、主に知的欲求を充たすものと考えられ、知的満足と名付けられる。暴力番組がこの因子を充たすとするれば、知的満足型として類型化される。

第5因子は、笑いとな付けられる因子である。視聴者は常に笑いを伴って番組に接することが予想される。ある暴力番組がこの因子を充たすとしたら、笑い型として類型化される。

第6因子は、視聴者が番組を見て良かったという感激を持つもので感動とな付けられる。ある暴力番組がこの因子を充たすとしたら、感動型として類型化される。

次に、よく視聴されている1～17の番組それぞれについて、各因子を構成する項目の平均点を算出して比較を試みた（表6）。Greenberg(1974)はこの方法を用い、各充足タイプの顕在性を表す指標 (factor strength) としているので、それを参考にした。各項目は5ポイント・スケールでデータをとっているので最高点は5点ということになる。

特に番組番号に○印のある暴力番組に限定した場合、それぞれの番組はど

の充足を多く満たしているのであろうか。第1因子の行動刺激を多く充たす暴力番組は見当らない。

表6 17番組の、各因子を構成する項目得点の平均点
(○は暴力番組、下線は最高点)

		因 子 番 号					
		1. 行 動 刺 激	2. 気 分 転 換	3. 感 情 移 入	4. 知 的 満 足	5. 笑 い	6. 感 動
番 組 番 号	1 ニュース～	1.94	2.43	2.48	<u>3.75</u>	2.28	2.65
	②大岡越前	2.34	<u>3.46</u>	3.32	3.01	2.54	2.57
	③ギミア～	2.25	2.94	3.13	<u>3.66</u>	3.28	3.03
	④火曜～	2.11	2.80	<u>3.35</u>	2.85	2.48	2.39
	⑤暴れん坊～	2.37	<u>3.22</u>	3.16	2.80	2.44	2.57
	⑥はぐれ刑事～	2.09	<u>3.58</u>	3.23	3.05	2.47	2.40
	7 プロ野球～	2.30	3.04	<u>3.73</u>	2.41	2.41	2.91
	⑧志村ケンの～	1.69	2.68	2.26	1.79	<u>3.62</u>	2.50
	9 凜々と	2.07	2.69	<u>2.76</u>	2.75	2.24	2.41
	⑩三匹が斬る	2.03	<u>3.51</u>	2.83	2.49	2.60	2.43
	11 ちびまる子～	2.73	<u>3.19</u>	2.86	3.10	3.17	2.71
	12 翔ぶが如く	1.98	2.49	2.62	<u>3.33</u>	1.90	2.81
	⑬加トちゃん～	2.26	3.19	3.17	2.11	<u>3.89</u>	2.83
	14 ねるとん～	3.31	3.47	3.77	3.14	<u>4.11</u>	2.96
	⑮土曜ワイド～	2.21	2.55	2.55	<u>2.82</u>	2.18	2.27
	16 NHK～	2.03	2.52	2.36	<u>3.91</u>	1.94	3.05
	17 関東甲信越～	3.23	3.53	2.50	<u>3.57</u>	2.03	3.35

第2因子の気分転換をより多く充たしている暴力番組としては、2の大岡越前、5の暴れん坊将軍、6のはぐれ刑事純情派、そして10の三匹が斬るがあげられる。以下同様にして、第3因子の感情移入を多く充たしている暴力番組は4の火曜サスペンス劇場、第4因子の知的満足を多く充たしている暴力番組は、3のギミア・ぶれいく、第5因子の笑いを多く充たしている番組は、8の志村ケンのだいじょうぶだあ、そして13の加トちゃんケンちゃんごきげんテレビがあげられる。第6因子の感動を多く充たしている暴力番組は見当たらない。3のギミア・ぶれいくが比較的第6因子の感動を充たしているが、この番組は先に述べたように第4因子をより多く充たしている。最後に15の土曜ワイド劇場が残っているが、この番組だけがどの因子も特に多く充たしておらず、むしろ平均的にそれぞれの因子を充たしていることがわかる。以上の結果から、暴力番組の類型が可能であり、それを表7にわかり易くまとめて示した。

表7 因子項目得点の平均点の特徴による暴力番組の類型

類 型	番 組 名
気分転換中心型	2. 大岡越前 5. 暴れん坊将軍 6. はぐれ刑事純情派 10. 三匹が斬る
感情移入中心型	4. 火曜サスペンス劇場
知的満足中心型	3. ギミア・ぶれいく
笑い中心型	8. 志村ケンのだいじょうぶだあ 13. 加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ
平均的充足型	15. 土曜ワイド劇場

3. 考察

1) 表の解釈

表6の数字は、表5で示された1～6の各因子を構成する項目の得点の平均点を表している。この平均点を目安にして、どの因子をより多く充たしているのはどの暴力番組なのかがわかる。それをわかり易く示したのが表7であり、この表から5つの暴力番組類型が得られたことがわかる。

この表7を検討してみると、同じ暴力番組とされるものでも1つの類型に入らず、それぞれの暴力番組が充たす特定の充足に応じて以下の5つに分類されることがわかる。3つの時代劇が全て気分転換型に入っているのは興味深い。

- 1) 気分転換中心型の暴力番組
- 2) 感情移入中心型の暴力番組
- 3) 知的満足中心型の暴力番組
- 4) 笑い中心型の暴力番組
- 5) 平均的充足型の暴力番組

2) 暴力番組の類型と効果類型

ここでは、調査の結果得られた暴力番組類型と効果類型を基に、仮設について検討する。

先ず、「大岡越前」「はぐれ刑事純情派」「三匹が斬る」「暴れん坊将軍」など、主に時代劇が入っている気分転換中心型の暴力番組は、現代とは時代背景が全く異なり、現実性があまりないので空想志向と関連づけられる。従って、一時的に現実世界から離れて暴力を視聴している意識がはっきりしているので、単にこれらの番組を視聴してすっきりするという効果が予想される。主に時代劇がこの類型にある中で、「はぐれ刑事純情派」という刑事番組があるが、これをどう解釈すべきであろうか。この番組は義理人情に焦点を当てており、弱いものが暴力の被害にあうが、最終的には弱いものが情け深い刑事に救われ、悪人は報いを受けるというパターンで構成されている。この

構成法は、時代劇の構成と共通するものである。従って時代劇と同様の効果がこの刑事番組にはあると考えられる。また、気分転換の因子を構成する項目に、「スカッとする」「気分が良くなる」があることからわかる様に、この気分転換中心型の暴力番組はカタルシス効果に対応している。

次に感情移入中心型の「火曜サスペンス劇場」は、時代劇と異なり現実性がある、かつ感情が移入してしまうので、現実世界との混同という影響が予想される。暴力シーンが多く描かれる世界を現実のものと混同してしまうということは教化の効果である。この様に考えると、感情移入中心型の暴力番組は教化の効果に対応している。

「ギミア・ぶれいく」は知的満足中心型の暴力番組であるという結果が得られた。知的満足の因子を構成する項目に「なるほどと感心する」があることから予想されるように、様々なタイプの暴力を習得していることが考えられる。従って知的満足中心型の暴力番組はまさに観察学習の効果と対応していると言える。

さて、笑い中心型の「志村ケンのだいじょうぶだあ」「加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ」は、暴力に笑いが伴っているのが特徴である。この因子を構成する項目に、「笑えておもしろい」があることからわかる様に、このタイプの暴力番組を視聴すると暴力がおもしろおかしく描かれるので、視聴者は暴力に対して平気になってしまうことが予想される。これは、マイナスイメージを持つものと弛緩状態の結合を特徴とする脱感作の効果にまさに適合してしまう。そこで、笑い中心型の暴力番組は脱感作の効果と対応すると言える。

最後に「土曜ワイド劇場」であるが、ほとんど全ての因子を平均的に満たしているという点で特徴的であると言える。何故この様な結果が得られたかについては、この番組が毎週異なった暴力番組を扱っていることから説明できる。ある時はサスペンス調のドラマを、またある時は刑事ドラマを放映するというように、様々なタイプの暴力番組から成っていると考えられる。従って、「土曜ワイド劇場」を、ひとつの番組として扱うことは妥当ではない

と言える。この意味では、「土曜ワイド劇場」を構成する個々の番組それぞれについて検討すべきであろう。しかし被調査者は、各自が視聴したそれぞれの番組について答えているため、全体としては相殺された形になり、結局平均的な数字が得られたものと考えられる。この様に考えると基本的には、平均的充足型を除いた4つの暴力番組類型が存在すると言える。

以上の様に、気分転換中心型の暴力番組とカタルシス理論、感情移入中心型の暴力番組と教化理論、知的満足中心型の暴力番組と観察学習理論、そして笑い中心型の暴力番組と脱感作理論は対応関係にあると言える。従って、4つの理論に基づく効果類型は、4つの充足に基づく暴力番組類型に対応しているということができ、仮説「カタルシス理論、観察学習理論、脱感作理論そして教化理論に基づく効果類型は、充足に基づくテレビ暴力番組の類型に対応する」は支持されたと言える。

Ⅲ. 結 論

本研究は、テレビ暴力研究において、何故4つの相反する理論（カタルシス理論と観察学習理論、そして脱感作理論と教化理論）が存在するかという疑問を持つことから始まり、これを説明するために、暴力番組にもそれぞれの効果に対応する類型があるのではないかという仮説をたてた。充足類型を応用し、暴力番組の類型化を行った結果、次の4つの型の暴力番組が得られた。

- 1) 気分転換中心型
- 2) 感情移入中心型
- 3) 知的満足中心型
- 4) 笑い中心型

さらに、これらの類型は、テレビ暴力研究における諸理論の効果の類型と対応していることがわかり、本研究における仮説は支持された。これによって、相反すると考えられてきた4つの理論を別々に扱うのではなく、暴力番

組類型と関連づけて扱うことが可能となった。つまり、これら4つの暴力番組類型のうち、どれを視聴したかによって、どの理論が当てはまるのかを問うことが可能になったのである。従って、4つの理論のうち、あるものが正しくて、あるものは誤りであるという従来の考え方を止めて、4つの理論を統合的にとらえることにより、テレビ暴力研究において存在した混乱を解決するための糸口が得られたと言える。

今後は、4つの暴力番組類型が果たして4つの効果と関わりがあるのかを1つずつ実証的に明らかにする必要がある。この過程において、これらの4つの暴力番組類型には、さらにどのような番組が当てはまるのかということも同時に明らかにしていく必要があるだろう。

また、本研究では暴力番組の類型化の基準として、充足類型を利用することにより暴力番組の類型化が可能となったが、この様な類型化の手順は複雑であることを指摘しておく。本研究は、暴力番組類型別の効果を明らかにするという長期的な展望に立ち、その第一段階として暴力番組を類型化することを目的とした。従って、今後の研究では、先ず暴力番組を類型化して、さらにそれぞれの暴力番組類型別の効果を検討することになるが、その度ごとに暴力番組の類型化を行うことは効率的でないと言える。暴力番組類型の基準としては、主に描かれる暴力のタイプから類型化を行う方法と、暴力番組から視聴者が得ている充足タイプから類型化を行う2つのアプローチを検討し、本研究では、後者を採用した。そこで今度は逆に、今回の研究で得られた各類型の中の具体的な番組を、どのような特徴のある暴力が描写されているかという点から検討し、暴力番組の類型化のための簡略的な方法として、今後応用することも考えられよう。

文 献

- Feshbach, S.(1961). The stimulating versus cathartic effects of a vicarious aggressive activity. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 63, 381-5.
- Greenberg, B.S.(1974). Gratifications of television viewing and their correlates for british children. In J.G.Blumler and Elihu Katz (Eds.), *The Uses of Mass Communications*. Sage, 71-92.
- Milavsky, J.R., Kessler,R.C.,Stipp,H.H.(1982). *Television and Aggression: A Panel Study*, NEW York: Academic Press.
- O'Rourke, D. and Blair, J.(1983). Improving random respondent selection in telephone surveys. *Journal of Marketing Research*, 20: 428-432
- Rosengren, K.E., Wenner L.A. and Palmgreen, P. (Eds.), (1985). *Media Gratifications Research -Current perspectives-*, Calif.: SAGE.
- 佐々木輝美 (1986) テレビ暴力に関する実証的研究の概観 (『教育研究 28』 国際基督教大学 127-156 頁)
- Siegel, A.E.(1956). Film-mediated fantasy aggression and strength of aggressive drive. *Child Development*, 27, 365-78.
- 竹内郁郎 (1976) 「利用と満足研究の状況」(『現代社会学 5』 Vol.13.,No.1, 86-114 頁)

テレビ番組視聴調査

回答者について

職業： 01 中学生 02 高校生 03 大学・大学院生 04 専門学校生 05 会社員
 (○でかこむ) 06 公務員 07 自営業 08 主婦 09 無職 10 その他 ()
 年齢：(10代 20代 30代 40代 50代 60代以上)
 性別：(男 ・ 女)

まず、あなたが好んでよく見るテレビ番組を3つ、下のわくに記入して下さい。番組④は、リストの中から1つだけ選び番号に○をつけて下さい。ただし、どれも見ていない人は、13. を選び、下の() に、好んでよく見る番組を1つだけ自由に書いて下さい。番組②と③のわくには、番組①で選んだ番組以外(リストの番組でも、リストにない番組でもいい)を1つずつ記入して下さい。次に、左側にある1～32の質問を読み、選んだ3つの番組それぞれについて、あてはまる番号を1つだけ選び○をつけて下さい。

番組①

(1つだけ○で囲む)

1. 大岡越前
2. 三匹が斬る
3. 月曜・女のサスペンス
4. 刑事貴族
5. はぐれ刑事純情派
6. 火曜サスペンス劇場
7. ギミア・ぶれいく
8. 土曜ワイド劇場
9. 暴れん坊将軍
10. ザ・刑事
12. 志村けんのだいじょうぶだあ
11. 加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ
13. どれも見ない

(他の番組を記入： _____)

番組②

(①で選んだ以外を記入、リストにない番組でも可)

番組③

質問

- | | | | | | |
|----------------------|---|----------|---|----------|---|
| 1. 自分も同じ様なことがしたくなくなる | 1 | 全くそれが通る | 1 | 全くちがう | 1 |
| 2. 自分も番組に出てみたいと思う | 2 | あまりそうでない | 2 | あまりそうでない | 2 |
| | 3 | どちらでもない | 3 | どちらでもない | 3 |
| | 4 | 大体そう | 4 | 大体そう | 4 |
| | 5 | 全くその通り | 5 | 全くその通り | 5 |

3. 自分が同じ事をしていてる気分になる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 4. 自分も主人公になった気分になる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 5. 自分も主人公のようになりたいと思う -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 6. 自分も同じ物が欲しくなる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 7. テレビと自分の場合を比較して安心する -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 8. テレビに出てくる人かうまくいこうれしい -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 9. テレビに出てくる人が失敗すると楽しい -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 10. ひいきにしている方が勝つとうれしい -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 11. ひいきにしている方がためたときやしい -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 12. かわいそうに思う -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 13. 興奮して感心する -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 14. なんなり、がんばるぞという気分になる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 15. 元気になり、がんばるぞという気分になる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 16. 色々な考 え さ せ れ -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 17. じーんと感動する -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 18. 笑え かつ お も と り -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 19. ス ー ー -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 20. う ー ー -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 21. 心が な よ ご む -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 22. 気分が な く な る -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 23. う が ま し く な る -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 24. す い な あ と 思 う -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 25. とく を し た り 気 分 に な る -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 26. 1 日 が い い 日 に な り て う れ し く な る -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 27. 好きな人が出てきてうれしくなる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 28. タレントがおもしろくて楽しい -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 29. テレビに出てくる人に会いたくなくなる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 30. 本当にそんな人がいたなあと思う -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 31. 見てよ かつ た な あ と 思 う -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)
 32. 教養がついてためになったような気分になる -(5 4 3 2 1)-(5 4 3 2 1)

ありがとうございました。○が全部ついているかを、もう一度確認して下さい

An Empirical Study of the Typology of Violent Television Programs (English Résumé)

Teruyoshi Sasaki

This thesis is based on the inquiry of the reason of why theories contrary to one another existed in the study of the effects of TV violence on regular television viewers. For example, the catharsis theory insists that if people are exposed to violent programs, their aggressive behavior would decrease, while the observational learning theory insists that if people watch violent programs, their aggressive behavior would increase. To find an answer to this question, the author reviewed major studies on the effects of TV violence, and it was found that the researchers have ignored the differences of the types of violent programs on television, which has caused confusion in this field of study. They have used various kinds of violent programs in their experiments. In other words, there has been no study on the typology of violent television programs, and hence no study on the effects of television violence in relation to the types of the violent programs. Thus, the purpose of this study is to classify violent television programs into different types.

After the examination of the nature of the four theories on the study of the effects of TV violence, predictions were made that if four theories in the study of the effects of the violent programs existed, four types of violent programs corresponding to the theories must also exist. Therefore, the following hypothesis was presented.

The types of effects based on the theory of catharsis, observational learning, desensitization, and cultivation correspond respectively to the types of violent programs based on gratification.

To test the above hypothesis, a survey was conducted. Out of 680 randomly sampled subjects, 268 people answered the questionnaires sent by mail. The data were factor-analyzed and four types of violent programs were obtained; namely

1) divertive, 2) empathic, 3) intellectually satisfying, and 4) laughter accompanying types of violent programs.

After the examination of the nature of those four types of violent programs, it was revealed that these types of violent programs corresponded to the types of effects of the four theories of television violence. Specifically, the catharsis effect was related with divertive violent programs, the modeling effect was related with a intellectually satisfying violent program, the desensitization effect was related with laughter accompanying the violent program, and the cultivation effect was related with empathic violent programs.

Through this study, the types of effects based on the theory of catharsis, observational learning, desensitization, and cultivation were found to correspond respectively to the types of violent programs based on gratification.